

授業参観！ふれ合い道德の価値は？



「ららららら・・・」歌いながら元気に登校する子供達。それは、土曜開校の朝のこと。子供達にとっては、特別な朝だったのでしょね。

さて、6月8日(土)の土曜参観には、多数のご参観を頂き、誠にありがとうございました。

子供達の様子はいかがでしたでしょうか？その日は「ふれ合い道德」と銘打って、各学級で道德の授業を公開しました。昔、「〇〇を入れないコーヒーなんて・・・」というコマーシャルがありました。が、「道德性のない知性なんて・・・」と思うのは私だけでしょうか？



様々な問題を抱える昨今の日本社会ですが、子供達の真剣な眼差しが希望を与えてくれます。そう言えば数日前、西原の町交差点の横断歩道を渡ったある登校班の上級生が、渡り終えて、止まっていていた右折車やバイクの方に帽子を取ってお辞儀をする姿を見かけました。一週間の疲れが吹き飛ぶような感動と清々しさを覚えました。上級生から下級生へ。ある班から他の班へ…。広がり、良心の輪！



「横、下。横、下・・・」何の号令でしょう？体操の号令？いやいや実は、雑巾のかけ方を下級生（1年生）の子に優しく教える6年生のかけ声なんです。

上の写真は、箒の使い方を教える姿。こんな微笑ましい姿が、校内のあちこちに溢れています。掃除で学び舎を美しくする時間は、心を美しく磨く時間でもあるのです。世界中見ても、こんな素敵な時間（掃除の時間）があるのは稀。美しい日本に生まれて良かったなあ～！

「教育の原点」って何だろう

教育の根源は 感化の力である
感化の初めての場は 家庭である
家庭の基本は 父母であり
父母は 最初の教師 その原点である

これは、ある中学校の校長室に掲げてあった言葉です。素敵な言葉ですが、ハッとさせられる言葉でもありますね。

北風と太陽（笑顔で心を育てましょう）

さて皆さんも子供の頃、学校の図書館でイソップ童話を読まれた方は多いのでは。人の生き方について考えさせるお話が沢山あります。その中でも「北風と太陽」というお話はとて有名ですね。北風と太陽が力試しをし旅人の服をどちらが脱がせるかという話。

この話の教訓は、「北風のように、無理矢理、強引に押しつけても人は動かない」。太陽のように「相手の気持ちを考えて行動すれば、自分自身で動いてくれる」ということです。

私たちも、親や教師、立場は違えども、かくありたいものです。太陽の如く、温かく子供の良さを見つめ、伸ばしていけるよう。そう言えば、下村湖人の書いた次郎物語では、息子である次郎のためを想い、人一倍厳しく接していた次郎の母が、臨終にあたり「ただ可愛がってさえやれば良かったのですね・・・」と呟いた言葉が鮮明に蘇ります。

勿論、時には厳しくすることも忘れてはならない側面。その際も、自分の感情にまかせ「怒る」のではなく冷静に「叱る」というスタンスを忘れることなく接していきたいものです。「躰」の名の下の虐待が社会問題となっている今、子育ての原点を見つめる意義を改めて感じる今日この頃です。それにしても、我が家も子育てが終わり、少なからず寂しさも…。いや、これではダメですね。そろそそ子離れしなくては！

寂しさに耐える心の準備を！皆さん、こんなに楽しい子育て、まだまだ続けられて幸せですね。



